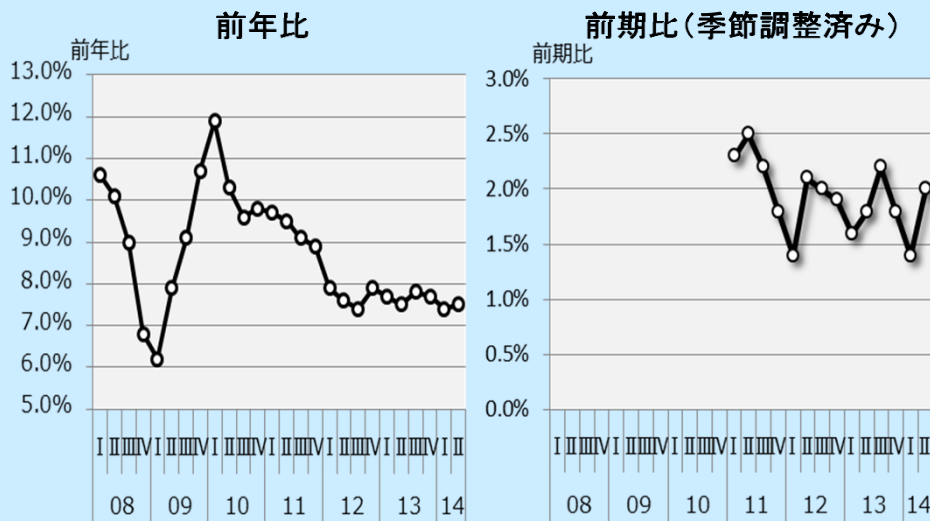


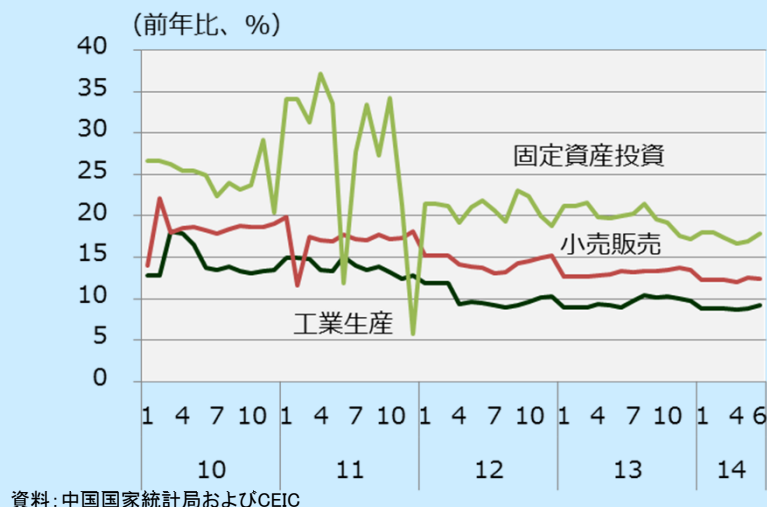
中国：GDP（2014年4-6月期）

MRI Daily Economic Points
July 17, 2014

実質GDP成長率（四半期）



固定資産投資、小売販売、工業生産（月次）



評価ポイント

今回の結果

- 中国国家统计局によると、14年4-6月期の中国の実質GDP(7/16発表)は、前年比+7.5%と1-3月期の同+7.4%から3四半期ぶりに伸びが拡大した。同統計局が公表している季節調整済み前期比も、前期比+2.0%と1-3月期の同+1.4%より拡大した。
- GDPの支出別内訳は公表されていないが、消費は底堅く推移していると思われる。4-6月期の小売販売(名目)をみると、4-6月期は前年比+12.3%と1-3月期(同+12.0%)から伸びが高まった。また、インターネット販売は、1-6月期で前年比+48.3%と大幅な伸びを続けている。
- 一方、固定資産投資(都市部、名目)は、引き続き鈍化傾向にあり、4-6月期は前年比+17.2%と、1-3月期(同+17.7%)からやや鈍化した。地域別で見ると、1-6月期は、東部地区が前年比+16.3%、中部地区が同+19.2%、西部地区が同+18.6%となり、中西部が牽引している。
- 工業生産(付加価値)は、1-6月期は前年比+8.8%と1-3月期(同+8.7%)から横ばいとなったが、6月単月では前年比+9.2%と、5月(同+8.8%)、4月(同+8.7%)から伸びを高めた。
- 輸出入をみると、輸出は1-3月期には偽装輸出取締り強化による反動減などで前年比▲3.5%と減少したが、4-6月期は海外経済の持ち直しもあり、前年比+4.9%と増加に転じた。輸入は、投資の鈍化などもあり、前年比+1.3%と1-3月期(同+2.0%)から伸びが鈍化した。

今後の見通し

- 中国では、4月以降、中西部の鉄道プロジェクトの建設や小規模企業向け減税、一部金融機関の預金準備率引き下げなど、景気刺激策が数次にわたり打ち出され、景気を下支えする格好となった。また輸出の回復を受けた企業マインドや生産の復調などを背景に、足もとの景気はやや上向き傾向を示している。当面は、各種の刺激策に支えられ、政策目標の前年比+7.5%前後の成長を続けると予想される。
- ただし、不動産市況の悪化が続く中、地方財政リスクは払拭されていない。政策面では、過剰投資抑制と地方財政リスク及び信用収縮リスクのコントロールという難しい課題を抱える状況に変化はなく、政府の政策運営は綱渡りを強いられるであろう。